

谷川岳

ナエバキスミレ

関東から近い「魔の山」として恐れられてきた谷川岳へは、近年ロープウエーが出来てから人が押寄せるようになり、深田久弥は登らなくなったという。確かに、上越線土合駅からゴンドラに乗って天神平に降り立ち、里山的な登山道を登れば、余裕で日帰りが可能。山容は草原的で、高山の趣が少ない。ところが、稜線の東側は、魔の山所以の一ノ倉沢を筆頭に凄惨な岩壁が連なる。ここで過去に死者が沢山出ているので

ある。谷川岳は極端に二面性を持ち合わせた山なのである。筆者が谷川岳に登ったのは二回。二〇〇三年はトリカブトとアザミの取材である。谷川岳の尾根にはジョウシュウトリカブトとヤツガタケアザミがあった。二回目は二〇〇九年、ナエバキスミレの取材で登った。ピンポイントでの情報がないうまま、天神平に降り立った。登山道を登れば、その内見つかるだろうと言う安易な考えで登った。ところが、どれだけ登

っても黄色のスミレは出現しない。どうも登山道沿いにはないと判断し、引返したのである。昼頃から広大なスキー場の斜面を徘徊するが、見えてこない。諦めかけて売店の前まで来ると、何と花壇にナエバキスミレが咲いていたのである。売店のおばさんにどこで採取したのかと訪ねた。答えはすぐ、場所の特定ができた。そして向った山の斜面、遠目にもはつきりと見える黄色い花の群生があ



った。ナエバキスミレはオオバキスミレの変種で、小型で、葉は光沢があり、茎や葉柄が赤味を帯びる。産地は限られ、この谷川岳、飯豊山地、名前の由来である苗場山等である。